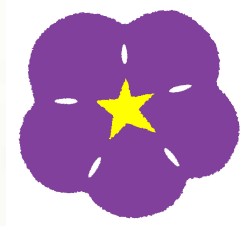


# 2025年度 施設関係者評価報告



成増すみれこども園 園長持橋亜紀

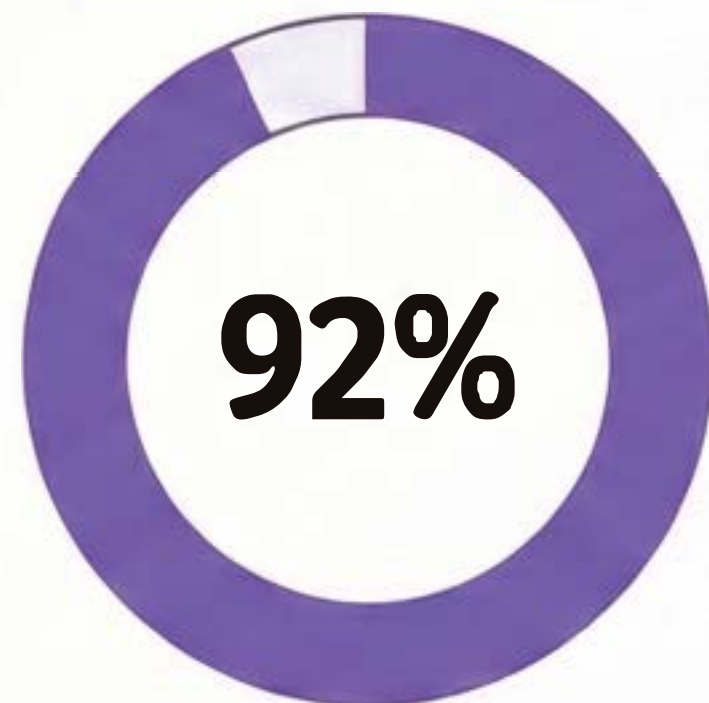
## 保護者の皆様からの評価

【目標1】 身体を動かすことが好きな子



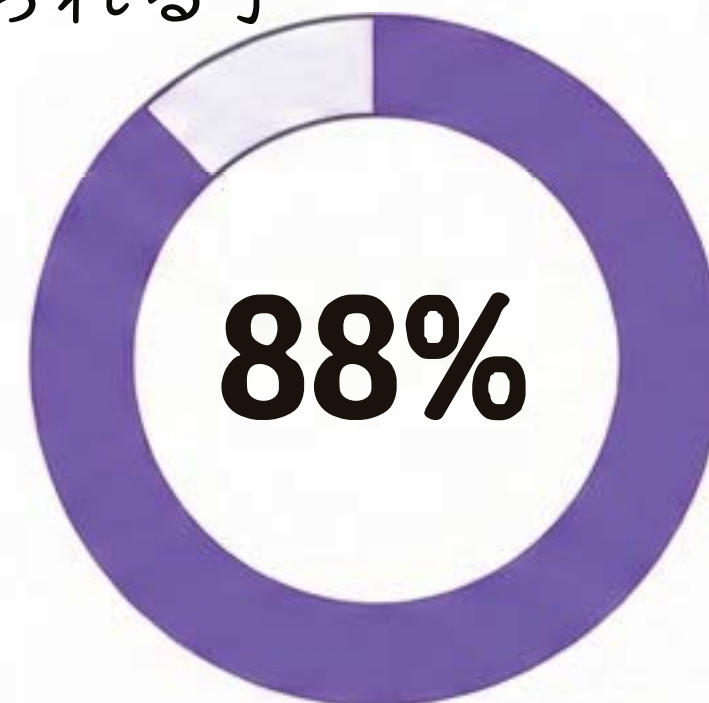
園庭の工夫と全力の遊び参加による成果。課題は夏の室内運動。

【目標2】 発見上手で好きなことを見つけられる子



図鑑やiPadの活用、廃材遊びによる探究心。保護者からの驚きの声多数。

【目標3】 友だちや自分の良いところを見つけられる子



「みてみてコーナー」による自己肯定感の向上。対人スキルの支援が次なる課題。

## 【目標1】 身体を動かすことが好きな子



### 教職員の評価

園庭やテラスを開放し、  
マット・巧技台を設定。  
保育者が全力で参加し  
「動く楽しさ」を共有。

課題：夏場の室内運動の  
マンネリ化防止。



### 保護者の声

「園庭はそこまで広くない  
ものの、玉入れやタイヤ転  
がしなど、先生方の工夫に  
に感心しています。」

### 子どもの姿 (エビデンス)



①園庭いっぱいを使った玉入れ / ②没頭する泥遊び / ③大縄跳びへの挑戦

## 【目標2】 発見上手で好きなことを見つけられる子



### 教職員の評価

子どもの「なんだろう？」  
に寄り添い、図鑑やiPadを  
自由に使える環境整備。



### 保護者の声

「廃材を使った創作  
遊びの発想が面白く、  
親も物を見る目が  
変わりました。」

### 子どもの姿 (エビデンス)



廃材を組み合わせた独創的な「基地」  
作り。自ら発見した喜びを伸ばす姿。

## 【目標3】 友だちや自分の良いところを見つけられる子



### 教職員の評価

「みてみてコーナー」で頑張った過程を褒め合い、自己肯定感を育成。

課題：トラブル時にお互いの思いを認め合える対人スキルの支援。



### 保護者の声

「積極的に前に出るのが苦手な子ですが、お手伝いの役割を提案してもらい、しっかり取り組む姿が見られ嬉しく思います。」

### 子どもの姿 (エビデンス)



大きな紙への共同制作と、段ボールハウスでの役割分担。

# 2025年度 重点課題①：食育指導の成果

## 肯定率 87%



### 教職員の評価

無理強いしない「一口挑戦」を通じ、苦手なものでも食べようとする意欲が育った。

### 保護者の声

「家でも『まずは食べてみる』ができるようになりました。」

### 今後の要望

「自園給食なので、食材を洗ったり切ったり混ぜたりと体験ができればいいなと思います」

## 2025年度 重点課題②：物の管理や後始末の指導

肯定率 89%



### 教職員の評価

音楽や写真を用いた工夫で自立心は育ってきたが、共有物の片付けや紛失防止には至っていない。子ども自身が管理しやすい環境の見直しが必要。

### 保護者の声

- 「自分で片付ける、ゴミを捨てるなど、園の活動を通じて自らできることが増えました」
- 「園での給食準備をきっかけに、お家でも食器を片付けたり、お手伝いしてくれたりすることが増えました」
- 「自宅とは異なり、園ではしっかりできている印象。先生方の声かけや、写真・マークを使った掲示の工夫のおかげだと感じています」

### 今後の要望

- 「園全体でバッグや帽子の紛失が多々ある」
- 「手拭きタオルを何日も持ち帰り忘れる」
- 「身辺自立ができていないなど、できていないことを共有してほしい」

## コミュニケーション面での課題と向き合い

「園での詳細な様子が分かりにくい」

【連絡体制の再構築】：  
アプリ（LKアンケート等）に頼り  
すぎず、対面での「一言共有」  
を可能な範囲で強化。

「遅刻や延長時、担任不在時の  
伝達体制への不安」

【情報共有の徹底】：  
担任外の教職員間での確実な  
申し送りルールの確立。

「持ち物等の連絡方法がバラバラ」

【一元化】：  
連絡手段の統一と整理。

## 2026年度 重点事業計画への接続

“ 2025の成果  
(11種の野菜栽培、  
iPad/ 廃材の探求、  
一口チャレンジ)

“ 2025の課題  
(物の管理・紛失、  
対人スキル)

“ 保護者の声  
(「もっと調理体験を」  
「自立を支援して」)

現在の興味関心と  
ニーズの統合

柱①：  
食育活動の充実  
～「育てる」から「作る」へ～

柱②：  
やってみよう！  
～すべての遊び・生活における  
チャレンジ～

# 2026年度 柱① 食育活動の充実 ～「育てる」から「作る」へ～

種まき・栽培



昨年の多様な  
野菜栽培の経験を  
基盤に継続。

収穫



自分たちで育てた  
愛着を育む。

調理プロセスの  
可視化 (NEW)



ボウルで粉を混ぜる、  
野菜の皮をむくといった  
「料理」の工程に  
直接触れる。

実食の連携



育て、調理したものを  
給食やおやつとして  
味わう。

目標：「一口チャレンジ」の成果を伸ばし、  
食への能動的な関わりを完成させる。

# 2026年度 柱② やってみよう！ ～すべての遊び・生活におけるチャレンジ～

## 創造

表現の正解を求めず、多様な素材を用意し試行錯誤に共感することで、創造の芽を育む。

## 探究

子どもの「なぜ」に寄り添い、共に驚き、不思議を深められる環境と対話を大切にする。

## 生活

失敗も成長のプロセスと捉え、自ら整える心地よさを実感できるよう、温かく見守り促す。

## 運動面

「あと少し」の挑戦を支える環境を整え、達成感を共有すること次への勇気を引き出す。

# 委員の皆様からのご意見

1

1. 評価の妥当性について 評価A

教職員と保護者の認識のズレを隠さず報告している点を含め、自己評価は適切であると認められました。

2

2. 今後の課題は適切に設定されているか 評価A

今までの取り組みをもとに、すみれらしさを深めていこうという狙いを感じた。すみれらしさを大切に、子どもたち主体でできることを進めてほしい。

3

3. 全体的なご意見

運動会や発表会で、子どもたちののびのび生き生きした姿をみることができた。教職員がそれぞれの考えを擦り合わせて目標等を共有しているのは大きな強みだと思った。

100%を目指すのは不可能に近い。できること、できないことを伝えていくことが必要。

課題から目を逸らさず、完璧ではないからこそ皆様と対話し続け、  
共にお子さまの成長を支えてまいりたいと思います。  
一年間、多大なるご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。